An aerial photograph of a city, likely in Japan, showing a dense urban layout with a river winding through it. A major road or highway is visible, curving through the city. The text is overlaid on this image.

南部振興プロジェクトチーム H27 年度提言書
～歴史を由緒に 湯を縁に～

平成28年3月

南部の産業・歴史・文化・伝統を掘り下げ、

未来につなげるプロジェクトチーム

はじめに

住民の住み慣れた地域での心地よい暮らしを守ることと、別府市の財産としての南部地区を未来の子供たちに残していくこと。

2つの目的をかなえるため、南部振興プロジェクトチームは、地域資源を磨き、南部地区がさらに魅力ある誇りの持てる地域となるための第一歩となりうるものを提言したい。

目 次

1. 南部地区の現状等	…	1
1－1. 南部地区とは		
1－2. 南部地区の現状		
1－3. 南部地区の課題		
1－4. 南部地区の資源		
2. 南部地区の課題と資源の整理	…	16
2－1. 南部地区の課題の整理		
2－2. 南部地区の資源の整理		
3. 南部振興の政策化と実施に向けた枠組み	…	24
3－1. 南部振興の取組み分野、将来像		
3－2. 南部振興の組織と政策づくりの視点		
3－3. 今後の取組み		

1. 南部地区の現状等

1-1. 南部地区とは

本提言において、南部地区とは、南小学校区を構成する南地区※1及び浜脇地区※2を指すこととするが、南部振興を進めていくにあたり、行政区単位で境界線を引き、周辺の地域とはっきり区別することは適さないと考え、対象範囲を南地区及び浜脇地区を中心とした別府市南部の地区とする。(図-1,2)

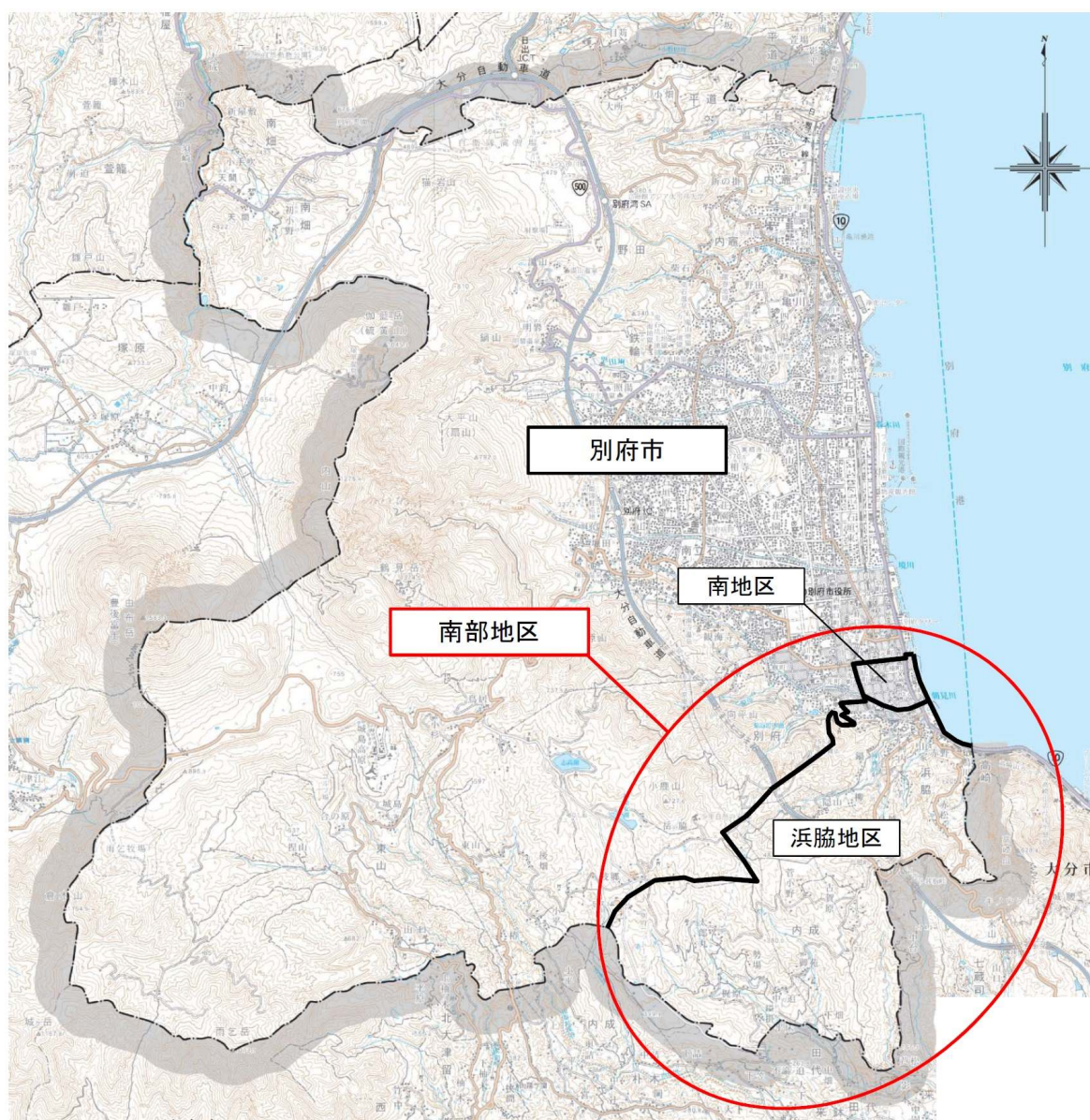


図-1 南部地区位置図

※1 楠町1区、楠町2区、秋葉町、末広町、千代町、浜町1区、浜町2区、松原町1区、松原町2区、南町、立田町

※2 朝見1丁目2区、浜脇1丁目1区、浜脇1丁目2区、浜脇2丁目1区、浜脇2丁目2区、浜脇3丁目、両郡橋、山家、赤松、浦田、田の口、河内、鳥越、柳、古賀原、内成

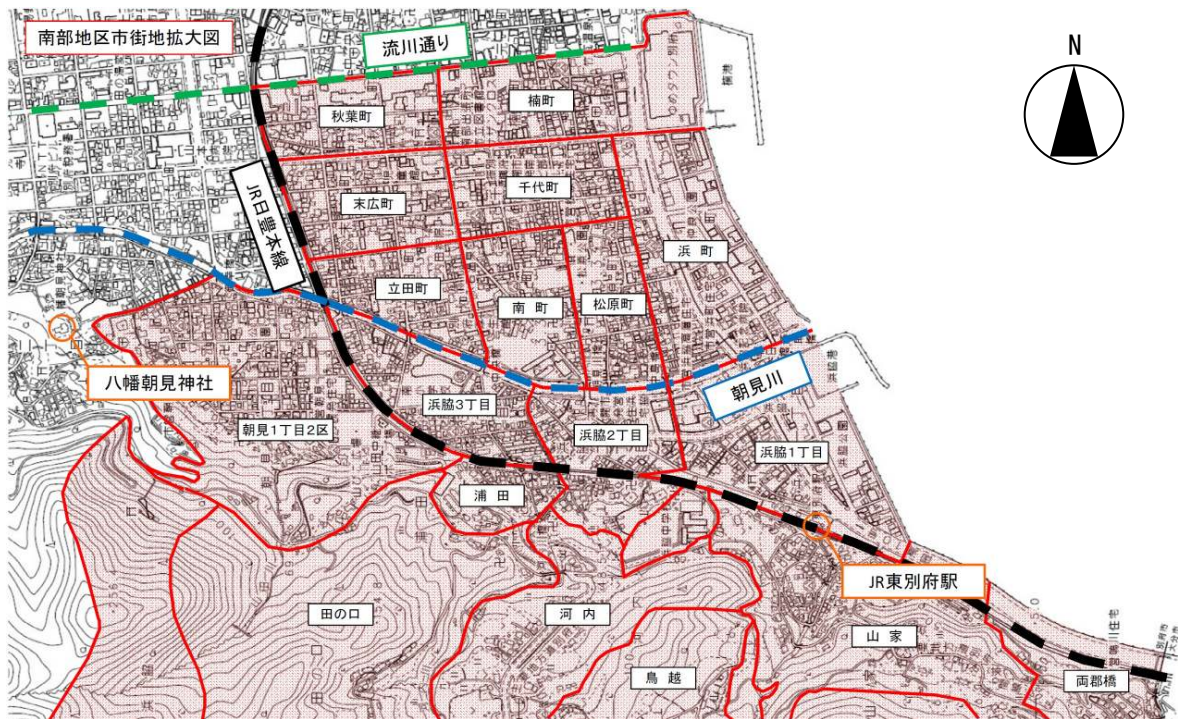


図-2 南部地区市街地拡大図

南部地区における人々の生活の歴史は古く、文献上では、西暦 700 年代成立といわれる「豊後国風土記」に「朝見湯」として記されている。浜脇の薬師堂の薬師如来坐像は平安時代の作とされ、南部地区には古くから温泉の恵みを受けた生活があった。

その後温泉を中心とした旅館街や繁華街、商店街が生まれ、特に明治期以降、温泉町として栄えた。住民はもちろん湯治客から旅行者、また船舶の乗組員等までが豊富な温泉資源の恩恵を享受していた。昭和 29 年時点の住宅地図上では南部地区の市街地に 20 か所以上の共同温泉が確認でき、共同温泉密集地区であったといえる。



産業については、浜脇地区の後背地の鳥越・赤松・枝郷・内成などに、竹工芸に適した孟宗竹の竹林が多く、切り出された竹材は湯治客が滞在中に使用する日用品や土産品の材料として重宝された。竹工芸品の他にも、つげ工芸品が別府のお土産として人気であったため、「竹細工」や「つげ細工」が伝統工芸品として定着し、現在に引き継がれてきている。中でも「竹細工」は『別府竹細工』として経済産業大臣指定伝統的工芸品に大分県内で唯一指定されており、日用品から始まった竹工品が美術工芸品としても高い評価を得ている。

※3 人通りの多い楠銀天街の様子（昭和 34 年）

※3 写真出典：別府市誌 第2編第1節 戦後のあゆみ

また、南部地区は市街化の歴史が古く、戦災を受けてないことや、道路などの基盤整備が遅れていることなどから、密集市街地が形成されている地区であるが、歴史的な建物、伝統的な寺社も数多く存在し、昔からのまつりも今なお引き継がれている。

1-2. 南部地区の現状

(1) 人口の推移

別府市の人口は、過去30年間で8.1%の減少であるが、南部地区の人口は42.1%減少しており、市内の他地区と比較して人口の減少が顕著である（図-3）。

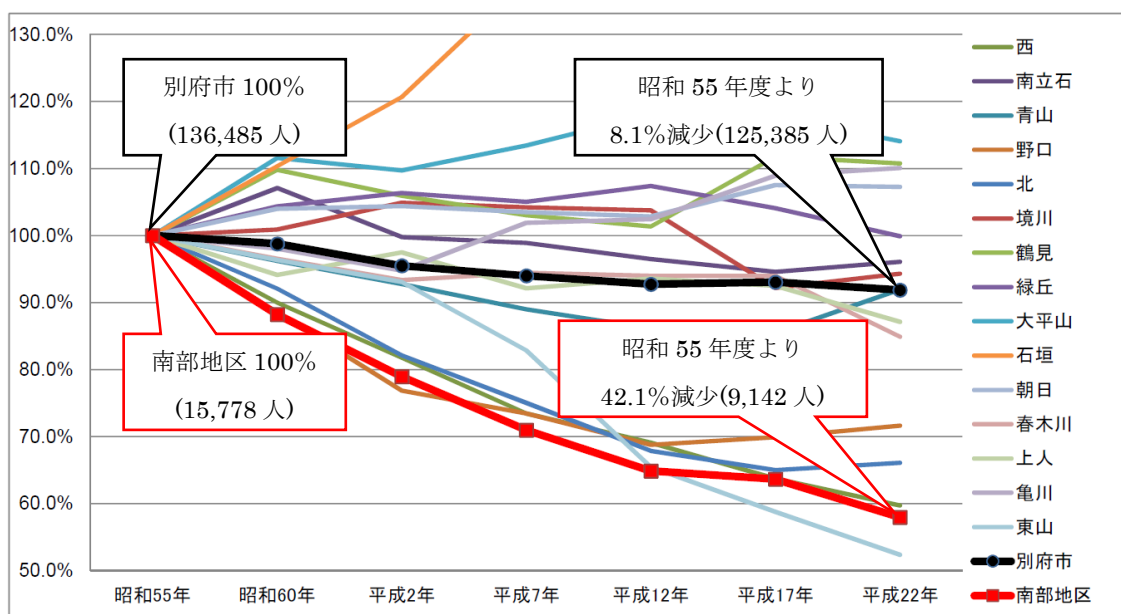


図-3 過去30年間の人口の推移（国勢調査）

(2) 高齢化率の推移

南部地区の高齢化率は、昭和 55 年時点では別府市全体が 11.0%、南部地区は 15.6%と、その差は 5%以下であったが、平成 22 年時点では 39.6%と、別府市全体の 27.5%より 10%以上高くなっており、高齢化も顕著である（図-4）。中には表-1 のとおり、高齢化率が 50%を超える自治会もあり、高齢化がかなり進んでいる。また、少子化に伴い、平成 14 年には旧南小学校と旧浜脇小学校が統合し、さらに山的手中と浜脇中の統合も控える等、南部地区において学校の統廃合が進んでいる。

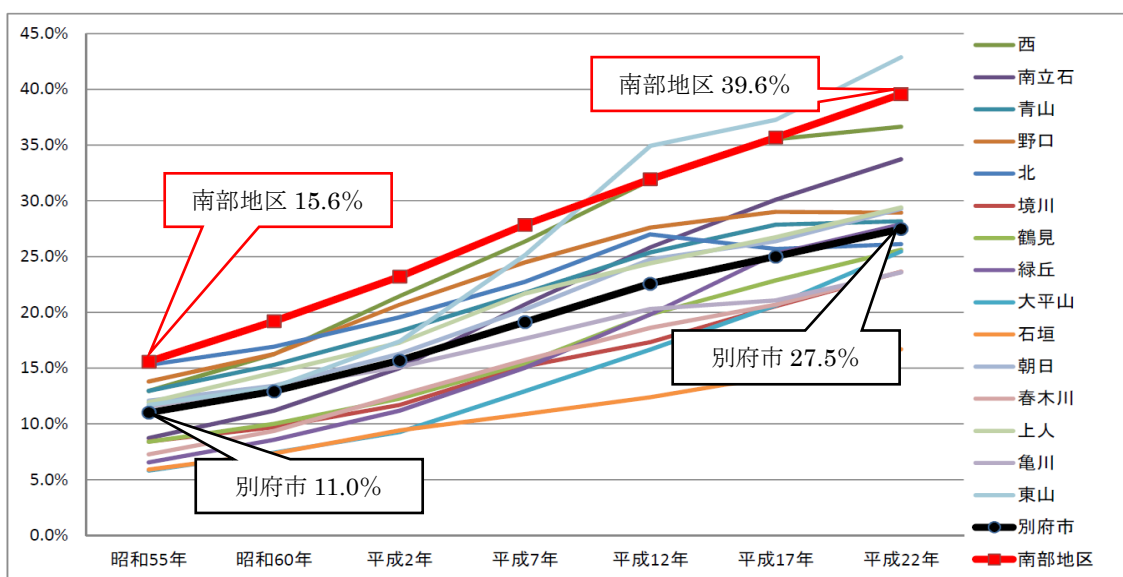


図-4 過去 30 年間の高齢化率の推移（国勢調査）

表-1 南部地区自治会毎の高齢化率・平均年齢（平成 27 年 4 月）（別府市統計書）

自治会	高齢化率	平均年齢	自治会	高齢化率	平均年齢
楠町 1 区	35.2 %	51.46	朝見 1 丁目 2 区	39.2 %	53.09
楠町 2 区	52.3 %	60.74	浜脇 1 丁目 1 区	38.0 %	51.95
秋葉町	37.6 %	53.01	浜脇 1 丁目 2 区	26.8 %	46.54
未広町	42.6 %	55.23	浜脇 2 丁目 1 区	47.6 %	55.74
千代町	34.5 %	50.74	浜脇 2 丁目 2 区	41.7 %	55.92
浜町 1 区	37.5 %	53.66	浜脇 3 丁目	44.7 %	56.58
浜町 2 区	42.6 %	54.44	両郡橋	47.0 %	56.66
松原町 1 区	36.0 %	50.28	山家	40.3 %	53.85
松原町 2 区	43.8 %	56.26	赤松	51.2 %	65.44
南町	45.7 %	55.16	浦田	35.5 %	52.75
立田町	45.7 %	55.16	田の口	48.1 %	55.37
			河内	31.6 %	48.74
			鳥越	41.1 %	54.41
			柳	48.2 %	59.43
			古賀原	38.6 %	53.22
			内成	45.8 %	59.22
南部地区合計	39.8%	53.41	浜脇地区合計	39.8 %	53.70

(3) 就業者数の推移

図-5は国勢調査による別府市居住者の産業ごとの従事者数の推移を示し、図-6は、南部地区居住者の産業ごとの従事者数の推移を示したものである。別府市全体の平成22年の就業者総数は昭和60年に比べ10%の減少であるが、南部地区の就業者総数は50%近く減少しており、別府市全体の減少率よりもはるかに大きい。

個々の業種ごとに南部地区の産業ごとの従事者数をみると（図-6,7）、昭和60年時点で最も多かった卸小売業については、平成22年時点で3分の1まで減少しており、建設業、製造業などをはじめ、ほぼ全ての業種で就業者数が減少している。

別府市全体での各事業別の従事者数が卸売業を除き、ほぼ横ばいであることに比べると、南部地区の深刻さが伺える。

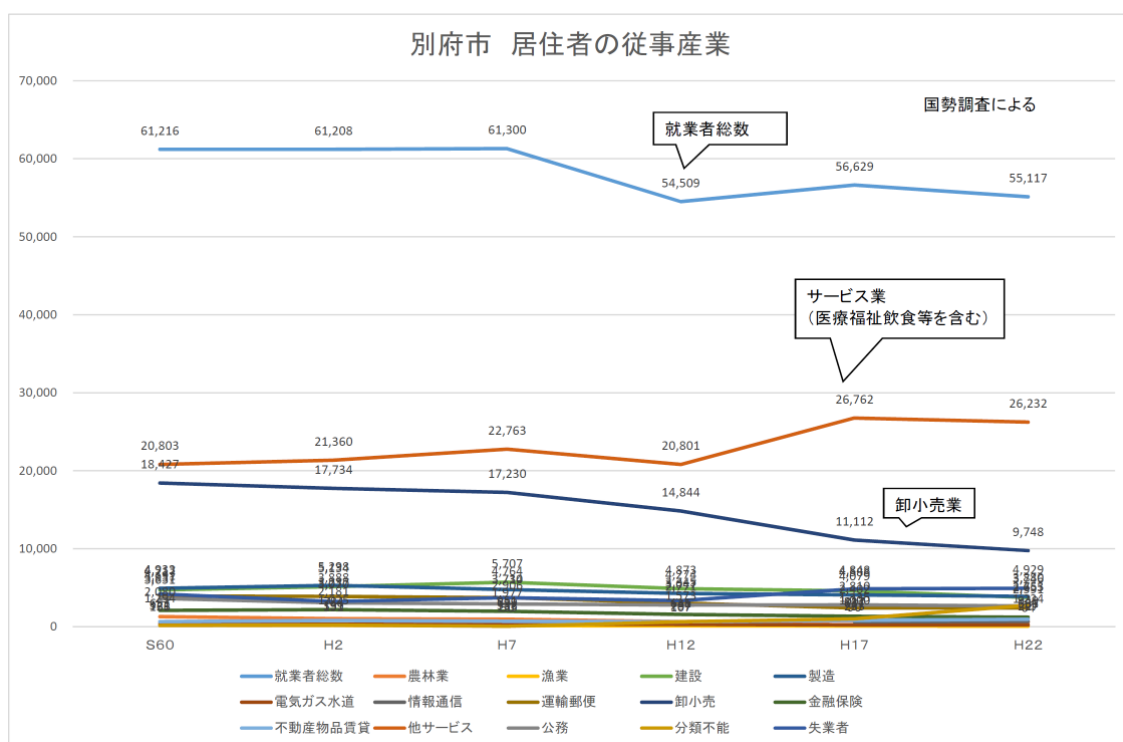


図-5 別府市居住者の従事者数（総数及びサービス、卸小売）の推移（国勢調査）

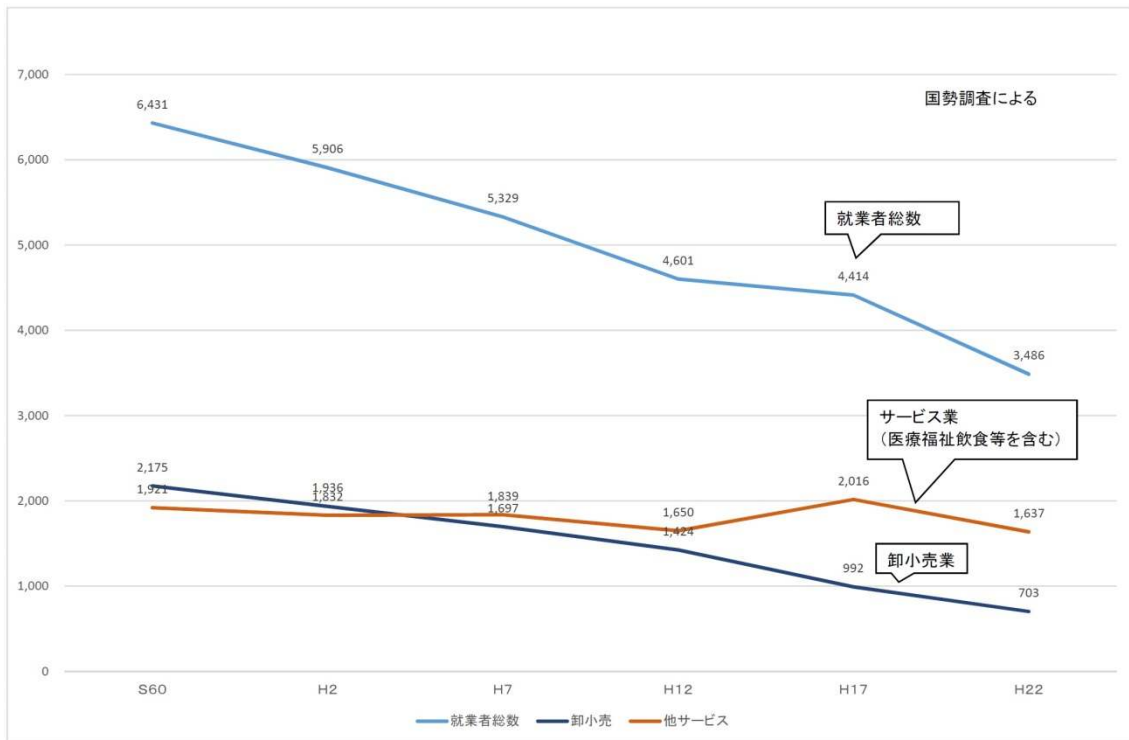


図-6 南部地区居住者の従事者数（総数及びサービス、卸小売）の推移（国勢調査）

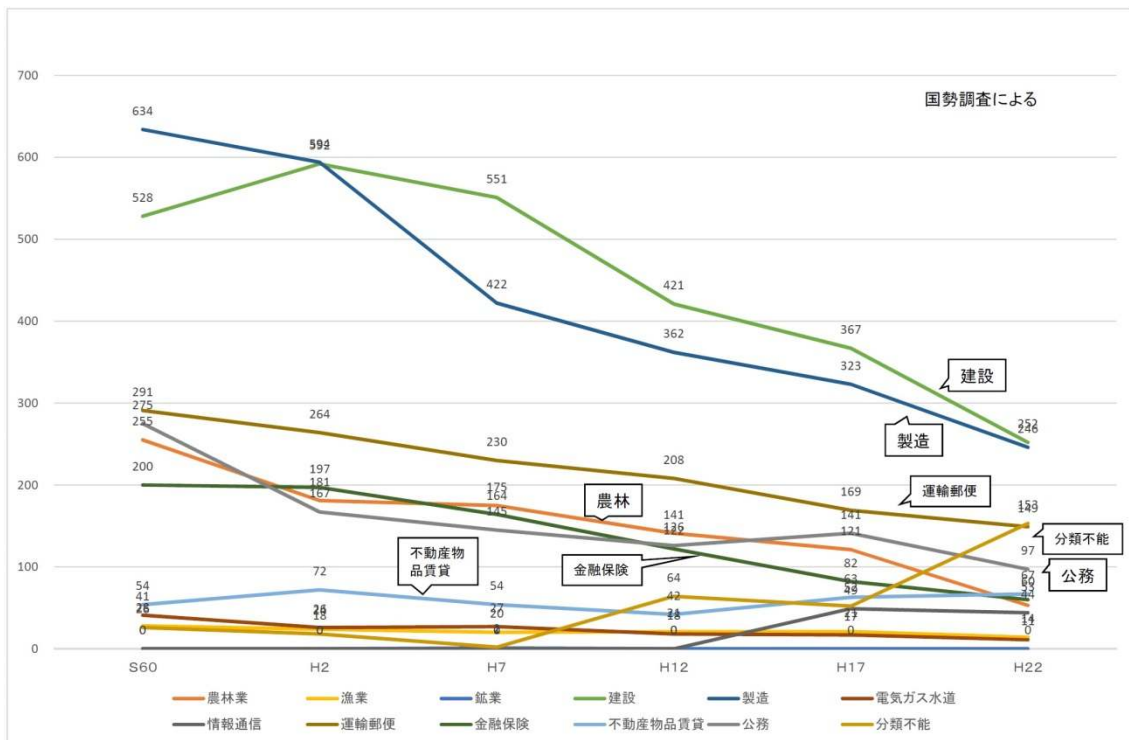


図-7 南部地区居住者の従事者数（サービス卸小売業以外）の推移（国勢調査）

(4) 旅館・共同温泉の分布

昭和 29 年及び平成 21 年の住宅地図から、各々その時点での旅館と共同温泉の分布状況を把握した。なお、地図上に施設名や記号で示されている施設のみ抽出しているため、実際には他にも共同温泉等が存在している。結果は図-8,9 及び表-2,3 のとおり。



※⁴昭和 3 年建築の浜脇高等温泉



※⁴湯都ピア浜脇と再開発ビル

※⁴ 写真出典：別府市誌 第 2 編 第 4 節 別府八湯

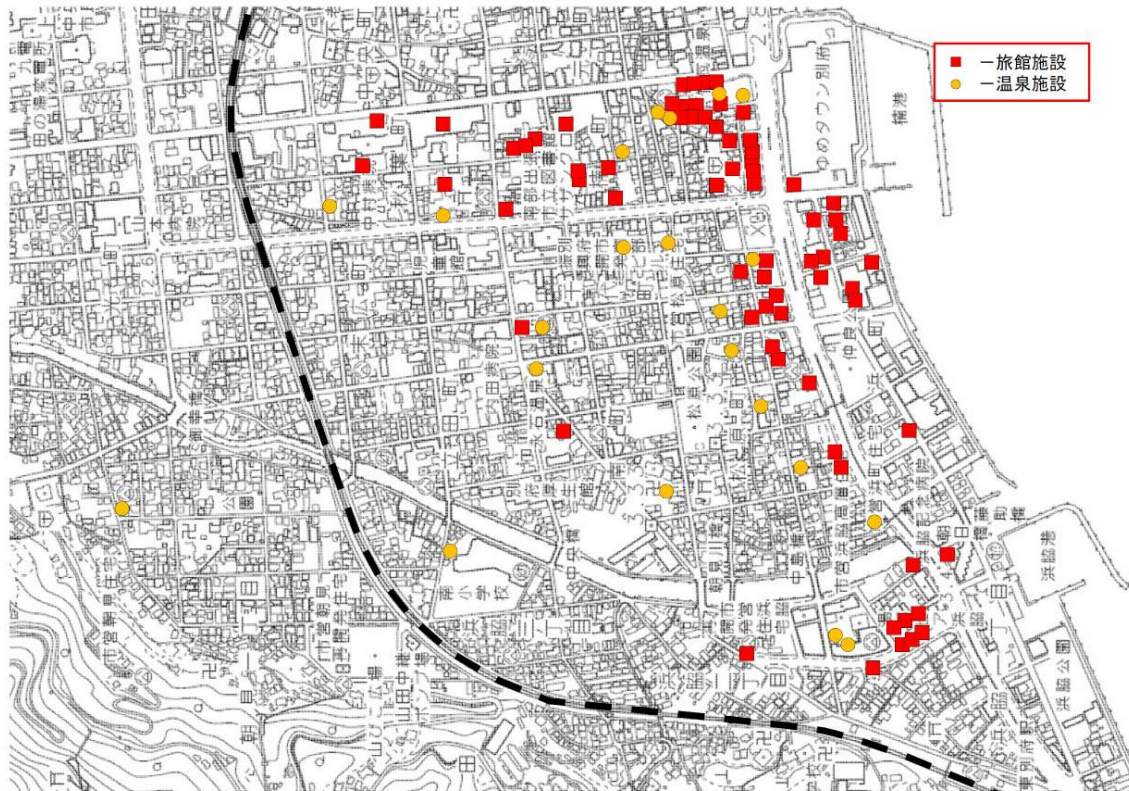


図-8 昭和29年の住宅地図上で確認できる旅館・温泉施設分布図

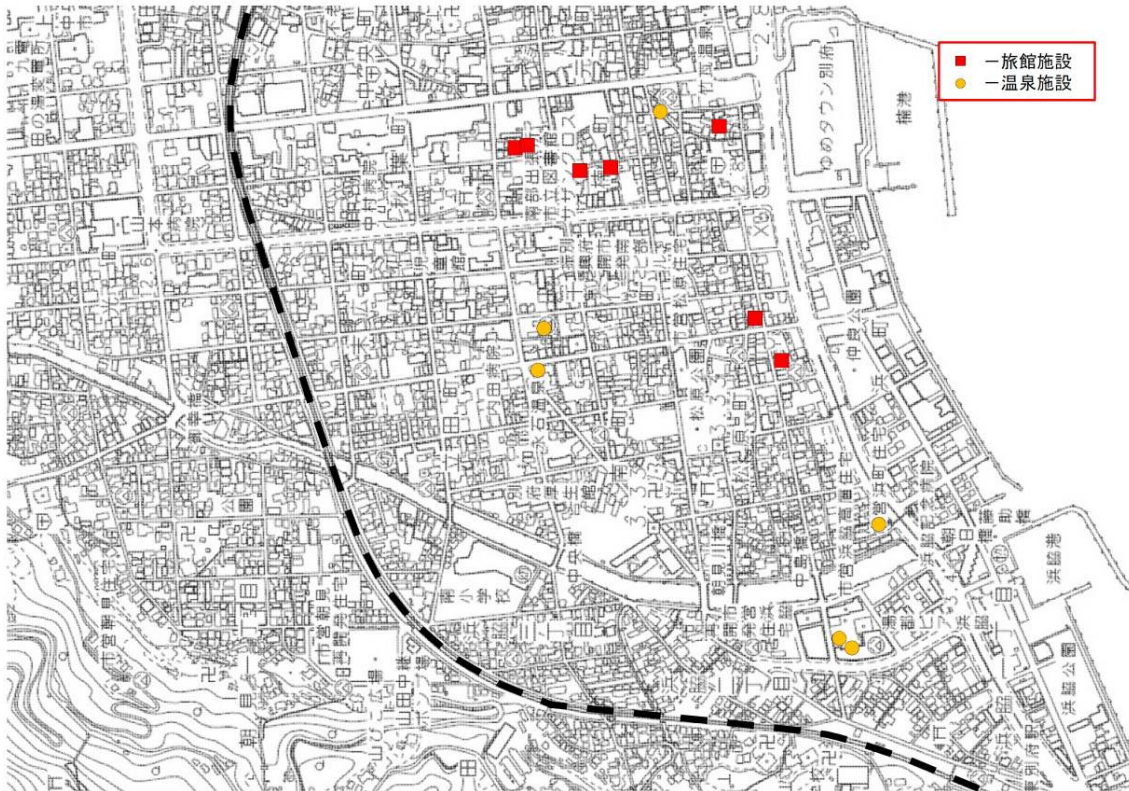


図-9 平成21年の住宅地図上で確認できる旅館・温泉施設分布図

表-2 昭和 29 年の住宅地図上で確認できる旅館施設一覧

1	旅館長崎屋	21	旅館ハリマヤ	41	村上旅館	61	旅館漆六
2	旅館アタラシヤ	22	旅館清和荘	42	旅館山海荘	62	旅館越水
3	ヒサゴホテル	23	高砂ホテル	43	旅館井田荘	63	旅館由紀の井
4	竹屋旅館	24	菊水旅館	44	旅館南清荘	64	旅館宇和島屋
5	片山旅館	25	旅館金波荘	45	旅館梅屋	65	旅館福力屋
6	白水旅館	26	ホテル海楽荘	46	旅館廣壽	66	日名子旅館
7	梅園旅館	27	旅館新豊荘	47	旅館判田屋	67	米屋旅館
8	円芳旅館	28	旅館玉田	48	旅館美鶴荘	68	旅館みしの井
9	大黒屋旅館	29	旅館みかさ	49	旅館山喜荘	69	旅館塩久
10	旅館カミヤ	30	旅館由布	50	旅館千葉	70	旅館泉丈
11	白水旅館	31	旅館タワラヤ	51	一福旅館		
12	和田彦本店旅館	32	旅館タワラヤ	52	丸山旅館		
13	壽荘旅館	33	旅館流泉荘	53	山田旅館		
14	旅館漆屋	34	旅館龍泉閣	54	旅館泉文別荘		
15	旅館三笠荘	35	旅館長壽荘	55	旅館若桜荘		
16	旅館和田彦支店	36	旅館お多富久	56	旅館豊海荘		
17	旅館中家	37	旅館喜可久	57	糸永旅館		
18	桜屋旅館	38	旅館桐麦	58	旅館大連館		
19	旅館浜吉	39	旅館四好荘	59	旅館柏屋		
20	旅館児島屋	40	松葉屋旅館	60	旅館山田屋		
※ 流川通り以南の旅館について昭和 29 年と平成 21 年の住宅地図情報を照合した。 灰色で塗りつぶしているものは、平成 21 年の住宅地図上で記載が確認できない施設。							

表-3 昭和 29 年の住宅地図上で確認できる温泉施設一覧

1	霊潮泉	7	名称不明	13	名称不明	19	名称不明
2	蒸湯	8	瀧竈温泉	14	名称不明	20	永石温泉
3	柳温泉	9	名称不明	15	名称不明	21	名称不明
4	壽温泉	10	紙屋温泉	16	日ノ出温泉	22	名称不明
5	楠湯	11	浜町温泉	17	浜脇高等温泉		
6	名称不明	12	名称不明	18	白井湯		
※ 流川通り以南の温泉について昭和 29 年と平成 21 年の住宅地図情報を照合した。 灰色で塗りつぶしているものは、平成 21 年の住宅地図上で記載が確認できない施設。 この外、昭和 29 年の地図上では確認できなかったが、松原温泉等が現存する。							

(5) 空き家の状況

人口減少に伴い、別府市全体としても空き家は増加しつつあるが、南部地区は宅地化やマンション建設等で都市化が進んだ市内の他地区と比べると、古い住宅や空き家が多い地区となっている。(図10)

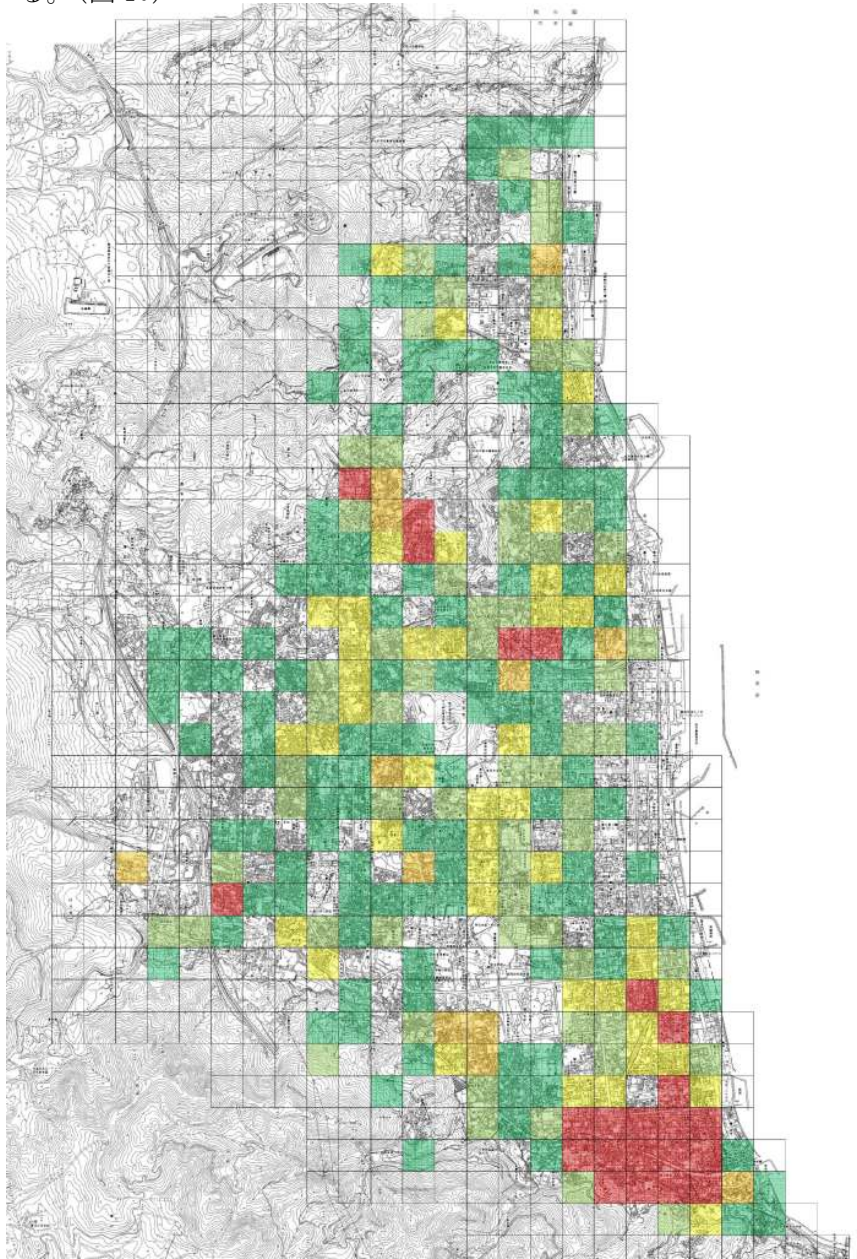


図-10 空き家のヒートマップ

凡例



※空き家の集積度合いを「 緑 → 黄 → 赤 」で表示。

(色が赤に近づく程、空き家が集積している)

(6) 住民の声

平成 27 年 10 月に意見公聴会を開催した(表-4)。様々な意見が出されたが、中でも生活に密着した要望が多く出されていた(主な意見としては表-5 に示す)。また、南部地区だけでなく、別府市全体に対する意見や要望も多く出された。

表-4 意見公聴会の開催日時

◆日 時
第1回:平成27年10月23日(金)19:00～ 【参加自治会】楠町(1区、2区)・千代町・南町
第2回:平成27年10月27日(火)19:00～ 【参加自治会】浜町(1区、2区)・松原町(1区、2区)
第3回:平成27年10月28日(水)19:00～ 【参加自治会】秋葉町・末広町・立田町



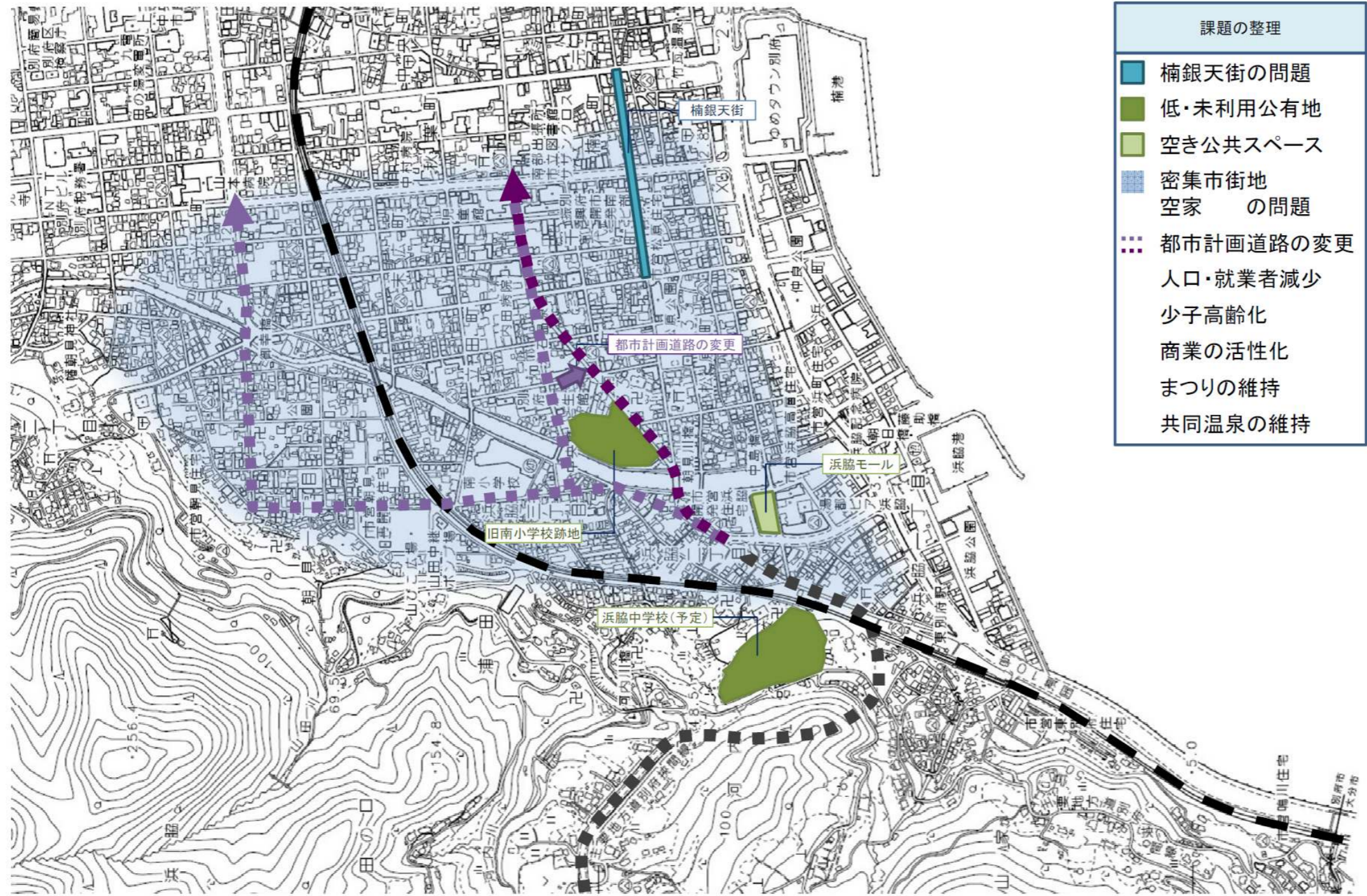
意見公聴会の様子

表-5 意見公聴会で出た主な意見

◆買い物場所について	◆その他要望
ゆめタウンは遠い。	◇南部地区に関する事
マルショクがなくなった。	区営温泉の水道代が高い。
松原住宅の1階はもっと安くしてほしい。	南部児童館にエレベーターが欲しい。
近場に買い物ができる場所を。	南部児童館2階にトイレが欲しい
◆旧南小跡地について	朝見川があふれないようにしてほしい。
若い人の定住を。	朝見川沿いのワシントンパークを撤去してほしい。
運動公園を整備してほしい。	自治会活動を行うため、区をまとめてほしい。(大きくなると困るとの意見も)
買い物ができる場所を。	朝見川沿いに無断駐車している
以前行ったアンケートを考慮してほしい。	秋葉通りと10号線の交差点、北側にも横断歩道が欲しい。
災害時に避難もできる集会場を。	若い人だけでなく、老人の憩いの場としても考えてほしい。
浜脇中学校跡地も考慮に入れてほしい。	避難所になっている西小を取り壊すときは、避難所を確保して ほしい。防災倉庫を十分に確保してほしい。
◆楠銀天街について	
活性化を。屋根や支柱も腐食し、なんとかしてほしい。	新しい学校のトイレは全部洋式にしてほしい。
アーケードの現状を見てほしい。	街灯をもっと設置してほしい。
車を通さないでほしい。	◇別府市全体に関する事
真っ暗で危ない。(暗くて良いとの意見も)	不老泉などの駐車場が少ない。
リヤカー市等で活用してほしい。	港や駅を降りた際、別府をアピールしては。
◆道路整備について	通りに足湯が欲しい。
平尾邸は残してほしい。	まちにベンチが欲しい。
整備の時期などを早めに教えてほしい。	温泉祭りを盛り上げてほしい。
南町を対象に説明会を行ってほしい。	滞納金の徴収をきちんとやってほしい。
整備する際は歩道の充実を。	防災士の別府市全体の会をつくってほしい。
◆バスの整備について	商工会議所と連携を取ってほしい。
路地を廻れるバスが欲しい。	駐車場サービス券を延長してほしい。
公約にもあるワンコインバスを。	
バス路線を永石通りから秋葉通りに変えてほしい。	

1-3. 南部地区の課題

南部地区は他の地域と比べると、人口減少や高齢化、就業者数の減少、空き家の増加などの進行が深刻な状況であることがわかった。これらに起因して南部地区にはまつり・共同温泉・自治機能・産業（農業、製造業及び商業）の衰退等様々な課題が生じている。特に旧南小学校跡地の活用に関しては、平成14年に統合した後、平成16年4月に新校舎へ移転して以降、暫定利用が続いており、その利活用が望まれている。課題を図-11に示した。

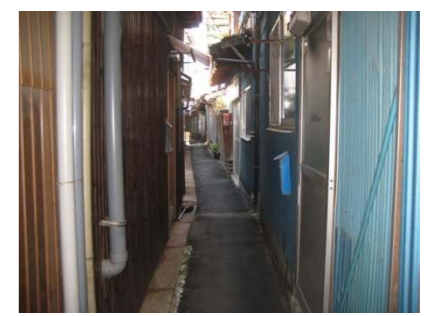


課題の整理	
■	楠銀天街の問題
■	低・未利用公有地
■	空き公共スペース
■	密集市街地 空家 の問題
■	都市計画道路の変更
	人口・就業者減少
	少子高齢化
	商業の活性化
	まつりの維持
	共同温泉の維持

楠銀天街



狭い路地



狭い路地



浜脇モール



空家



空家



旧南小学校跡地



道路



図-11 南部地区の課題

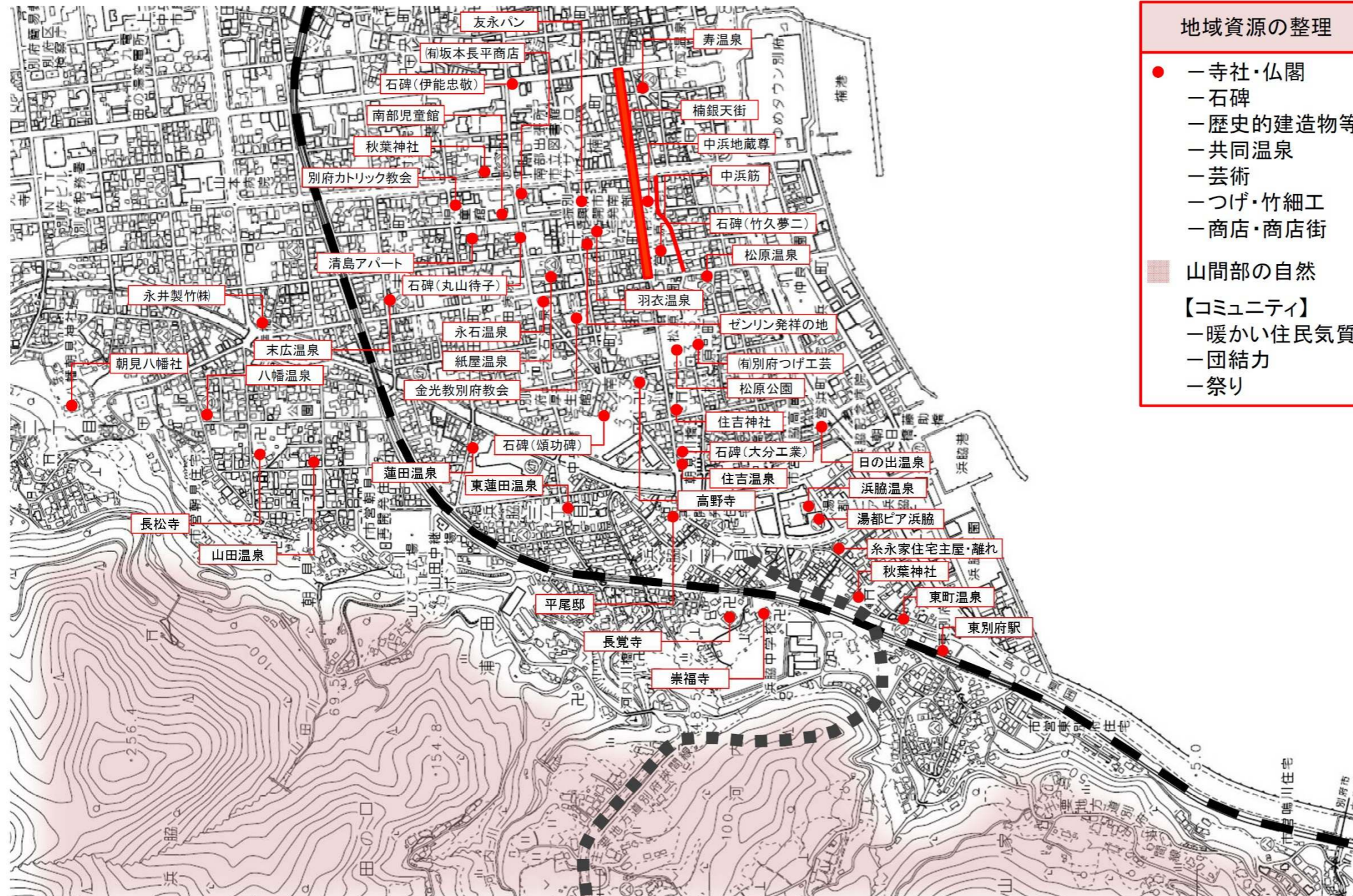
1-4. 南部地区の資源

南部地区は、明治から昭和にかけて温泉町として発展し、現在の別府市の中心となった地区であり、歴史的な建造物や伝統的なまつりが存在している。他にも様々な施設、店舗、地域活動団体があり、これらは歴史的な建造物、伝統的なまつりとあわせて南部地区の地域資源である（表-6、図-12）

また、山間部には棚田を擁し、里山の文化と伝統は地域住民の活動やまちづくり団体などの取組みにより守り伝えられてきた。

表-6 南部地区の資源

①歴史・伝統	
◇寺社・信仰関係 秋葉神社(秋葉町)・別府カトリック教会・中浜地蔵尊・朝見八幡社・長松寺・金光教別府教会・高野寺・住吉神社・長覚寺・崇福寺・秋葉神社(浜脇)	
◇石碑 「伊能忠敬測量史跡」・「竹久夢二・彦乃の療養の地」・「歌人 丸山待子 生誕の地」・「頌功碑」・「大分県立 大分工業高等学校発祥之地」	
◇歴史的建造物等 南部児童館・平尾邸・糸永家住宅・東別府駅・松原公園	等々
②温泉・コミュニティ	
◇共同温泉 寿温泉・羽衣温泉・松原温泉・紙屋温泉・永石温泉・末広温泉・八幡温泉・山田温泉・住吉温泉・日の出温泉・蓮田温泉・東蓮田温泉・浜脇温泉・湯都ピア浜脇・東町温泉	
◇コミュニティ 暖かい住民気質・団結力・祭り	等々
③産業	
◇商店・商店街 友永パン・(有)坂本長平商店・楠銀天街・中浜筋	
◇つけ細工・竹細工 (有)別府つけ工芸・永井製竹(株)	
◇芸術 清島アパート	
◇その他 山間部の自然	等々
④地域活動団体	
◇各自治会 ◇BEPPU PROJECT ◇ツーリズム浜脇 ◇別府少年少女発明クラブ ◇子ども 浜脇太鼓 ◇温泉道（茶房たかさき）	◇神の愛の宣教者会別府カトリックの家 ◇清島アパート アーティスト ◇南部子育て仲よしクラブ ◇内成倶楽部 ◇別府八湯ウォーク連絡協議会
	等々



- 地域資源の整理**
- 一寺社・仏閣
 - 一石碑
 - 一歴史的建造物等
 - 一共同温泉
 - 一芸術
 - 一つげ・竹細工
 - 一商店・商店街
- 山間部の自然
- 【コミュニティ】
- 一暖かい住民気質
 - 一団結力
 - 一祭り



図-12 南部地区の地域資源

2. 南部地区の課題と資源の整理

この章では、南部地区の課題や資源についてさらに掘り下げ、南部振興政策の方向性の基礎となる考え方を示す。

2-1. 南部地区の課題の整理

(1) 歴史と伝統

《温泉町発展の歴史的地区として認知されていない》

南部地区は、かつて温泉町としての繁栄を築いたものの、別府の観光や産業の中心が次第に北へ移動するのに伴って、軒を連ねた旅館や商店が次第に減少し、多くの歴史的建造物も失われてゆく経緯を辿った。

そのため、現在は、文化財として指定、または登録されている建造物である糸永家住宅、東別府駅、別府市児童館などが新旧の住宅の中に点在している様相で、一見して歴史を感じられる街区ではないからか、南部地区は歴史的地区として広く認知されているとはいえない状況である。



糸永家住宅



東別府駅

《伝統のまつりを存続させることが難しくなりつつある》

南部地区には、「浜脇薬師祭」「住吉神社海上渡御祭」など、伝統と住民の誇りの象徴となってきたまつりが存在するが、担い手の不足や高齢化により、まつりを維持し伝えていく後継者の課題などが生じている。地区に伝わる伝統のまつりは、その歴史文化的な意味からだけではなく、子どもたちが成人した後に、生まれ育った土地に帰属意識を持ち、誇りを持つための重要な役割を担っている点を忘れてはならない。



住吉神社海上渡御祭の様子（上：平成 25 年/左：平成 10 年代前半頃/右：昭和 20 年代 撮影）



浜脇薬師祭の様子（平成 10 年代頃 撮影）

（2）共同温泉

《利用者の減少で共同温泉の維持が困難になっている》

南部地区の共同温泉は、かつては地元住民も旅行者も利用した温泉町発展の中心的な施設であったが、旅館の内湯化などにより、旅行者の利用は減少し、住民中心の利用となった。さらに、近年、新築住宅でも内湯化が進み、新築住宅に居住する世帯は外湯である共

同温泉を利用する機会が減り、共同温泉の魅力に気づく機会も減少している。このため、組合制をとっている共同温泉は、組合員の減少が進み、閉鎖する共同温泉が出てきている。また、閉鎖に至るまでではないが、番台を置けなくなったり、施設や設備の保守など、経営に苦心している温泉組合が次第に増加し、共同温泉の維持が困難となってきている現状である。



大正3年改築の「楠温泉」※5



当時の5大温泉の一つ「霊潮泉」※5

(写真は、大正末頃)

《共同温泉の弱体化は、別府らしい地域の結びつきの弱体化である》

昭和の末期頃までの南部地区には、地区の大人も子どもも皆それぞれの地区の共同温泉に入るのが普通といった状況があり、共同温泉は、地域の人と人との直接の結びつきを生むことができる重要な場所のひとつであった。他の地区との比較は困難であるが、移住者からは、南部地区について「住民同士の距離が近い」「垣根の低い気質が感じられる」との評価がある。地区住民からも、「あんひとは風呂が一緒やけん知っちゃる」といった声を聞くことがある。つまり、共同温泉の利用者の減少や経営の問題は、単に浴場施設経営の問題ではなく、地域コミュニティの基盤である人のつながりに関わる問題でもあり、共同温泉が地域コミュニティの基盤であることについての認識の薄れは、別府らしい地域の結びつきの弱体化を招いている。

(3) 立地と産業

《人や物の流れが生まれにくく、自然な人口流入も生まれにくい状況になっている》

南部地区は、別府市の南端に位置しており、市内の他の地区から南部地区へ向かう人の流れを作る拠点が多く、地域の人以外には「南部のほうに行く用事がない」状況となっているほか、国道10号より西側に地区を南北に抜ける目立った幹線道路がないため、地域外の拠点同士を結ぶ中間点として人や物の流れも生じにくい構造になっている。

住宅地としてみた場合も、南部地区には、一方通行等の細い道が多く、自家用車の通行

※5 写真出典：別府市誌 第2編 第4節 別府八湯

利便性の点等で不利な条件があること、市街地化の歴史が古く、新たに宅地化するまとまった土地が少ないことなどが、自然な住宅更新や新規居住者の流入を妨げる要因のひとつになっていると考えられる。

《店舗の出店が進みにくく、伝統工芸の集積も産業の縮小とともに衰える》

商業環境としてみた場合も、上記のような往来や居住者が不足する状況が店舗の新規開業の不利条件等となるため、商業の活性化が進みにくくなっていると考えられる。

また、南部地区は歴史的に竹細工やつげ細工といった伝統工芸が栄えた地区であるが、近代のプラスチック製品や安価な外国製品の登場により、伝統工芸の集積は衰えている。また、若手職人が南部地区に定住する環境整備も十分とはいえない。



竹細工

《高齢化などにより豊かな里山の維持に課題が生じている》

山間部には、棚田に代表される歴史のある豊かな里山が存在しているが、担い手の減少と高齢化により里山をかたちづくる農業や地域コミュニティの維持に課題が生じている。ただし、地域の団体を中心とし、大学の研究室や地域外の人も加わった棚田保全や滞在の取組み、市街地での朝市などの取組みも行われている。

また、南部地区の山間部は市街地に隣接する位置にあるうえ、山間部と市街地をつなぐ別府挾間線の開通によりさらに「近く」なる見込みであり、南部地区の振興を市街地と山間部を結びつけた枠組みで考える視点が必要である。



内成の棚田



別府挾間線

2-2. 南部地区の資源の整理

南部地区の資源については、歴史と伝統、共同温泉と地域コミュニティ、産業に加え、移住・定住先としての南部地区について述べ、南部振興の資源と可能性について示す。

(1) 歴史と伝統

《温泉町近代化の歴史は「別府にしかないもの」》

代表的な文化財や表通りを一見した住宅地の様子だけにとらわれず、南部地区をつぶさに見ると、南部地区には、新興住宅地には存在しない古い街区や共同温泉を含む建物、様々な構造物、伝統のまつりなどが現存しており、それぞれに当時の習俗を表す歴史ストーリーが伝えられていることが分かってくる。

近年、国も個々の遺産を点として指定、保存するのみであった従来の文化財行政だけでなく、「地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風俗などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化する」（「日本遺産^{※6}」主旨より）との観点で様々な文化財を群体として捉え、総合的に活用する取組みを始めている。このような見方にならうと、温泉都市として国内随一の規模である別府の明治期以降の温泉町としての発展の歴史は、他の都市の近代史とは異なる個性的なストーリーを持っていると推察され、その中心地であった南部地区の歴史と伝統は、まさに「別府にしかないもの」のひとつであると見ることが出来る。遺産群等の公的認定に至るまでには高いハードルがあるとはいえ、南部地区の温泉町としての発展の歴史について、現代的な視点でそのストーリーや遺産をまとめ、南部地区を歴史的な地区として再評価し、地域の振興に生かしていく余地は大いにあると考える。

(2) 共同温泉

《魅力的な共同温泉が多く残っている》

別府における共同温泉は、単なる共同浴場とは異なり、まちの発展の中心となってきた歴史を持っている。大正・昭和期の温泉建築は、新旧の住宅が混在する南部地区の住宅街の中でも独特の存在感を持っている。また、現在でも南部地区は共同温泉密集地帯であり、温泉同士が50メートルほどしか離れていない所もある。



住吉温泉

^{※6} 文化庁が平成27年度より開始した、文化財を群体（点から面への展開）として捉え、従来の保護一辺倒から積極的に活用することに目的を転換した新しい施策。

《共同温泉は移住者と地域の人もつなぐことができる》

共同温泉は、南部地区の歴史の主役であるだけでなく、現に使われている生きた歴史であり、地域の人と人とを直接結びつけ、おおらかで垣根の低い気質をつくってきた文化の拠点でもある。

地区の共同温泉を日常的に利用することで地域にすぐに溶け込めたという移住者の声もあり、地域の人同士だけでなく、地域の人と移住者もつなぐ別府独自の強力な「移住者支援装置」として、共同温泉を移住促進に積極的に生かすことができるのではないだろうか。



末広温泉

《入浴習慣も魅力であり財産》

これまで述べたように、共同温泉は南部地区の重要な資源のひとつであり、その運営を持続可能にすることが課題となっている。地域の未利用者も含めた利用者増加を図る取組みが望まれるが、その一方で、別府の共同温泉独特の入浴習慣・作法のようなものや、入り始めるまでのちょっとした抵抗感など、共同温泉共通の心理的な敷居のようなものも存在することは確かであり、よく話題になる点でもある。

しかし、入浴習慣をただの「旧慣」と見ずに、共同温泉の長い歴史の間に定着した別府らしく、意味のある「作法」だとわかれば、地域の未利用者や移住者等にも共同温泉の魅力のひとつとして受入れられる余地はある。同時に、移住者も含め広く地域の人が共同温泉に親しみ、日常利用できるような「現代に持続可能な共同温泉」を地域の人と一緒に考えていければ、様々な面白い展開が可能なのではないだろうか。

(3) 産業と地域活動

《伝統工芸、食品製造、アートなど、職人的な「手しごと」産業の適地》

課題の項で述べたとおり、人口や立地等の条件だけで見る限り、南部地区は商業の活性化が進みにくい状況があると考えられる。しかし、このように不利な条件がある一方で、食品製造や工芸品製造、飲食店などで、市外・県外の顧客にも高く評価されている店舗がいくつも存在する地区でもある。このような評価の高い店舗の中には、老舗に限らず、新たにオープンし、そのこだわりのある商品が口コミで評判を呼ぶなどして定着してきている店舗も見られる。

また、若いアート作家が地域に根付いて活動していることで話題の「清島アパート」が南部地区にあるという事実は、南部地区の環境や地域住民の受容力の表れであろう。

南部地区は竹細工やつげ細工といった手作業により作り出される伝統工芸が栄えた歴史を持ち、元々職人が多かった地区である。また、伝統工芸品や「風流見立細工」など、芸術文化につながる営みも昔から盛んであった。そのような視点で見ると、南部地区は工芸や食品製造、アートなど、職人的ないわゆる「手しごと」に関する産業が非常によく馴染む地区であるといえる。



清島アパート



風流見立て細工^{※7}

《「手しごと」を地域の歴史・伝統、共同温泉文化、環境と結びつけた地場産業に》

「手しごと」産業は、南部地区に所縁のある産業であり、南部地区の歴史・伝統、共同温泉文化、環境などと相互に結びつき、魅力を高め合うシンボリックな地場産業となり得る。

これまで述べた地域資源をひとつひとつ育て、結びつけていけば、南部地区は、その歴史・伝統、文化、環境、産業が調和した「訪れたい」、「移住したい」、「開業したい」地区になり、交流人口や定住人口の増加を呼び込み、豊かで持続可能な地域にすることができるのではないだろうか。南部地区は、その特色を育てることで、多彩な別府のイメージを代表するもうひとつの地区になり得る可能性を持っていると考える。

《地域の人による地域活動が活発に行われている》

南部地区では、地区の誇りや生活を守り豊かにする自発的で多様な地域活動が、地域の人や地区外の協力者などの手で活発に行われている。近年では、地域の関係が薄れ、地域活動が縮小している地域が少なくない。担い手や後継者不足に課題があるとはいえ、地域の人々が主役になった多様な活発な地域活動があることは、南部地区の資源として大いに評価されるべきである。

^{※7} 写真出典：市報べっふ 2013.8月号 浜脇薬師祭りの見立て細工

(4) 移住・定住先としての南部地区

《住環境でも多くの魅力を持っている》

南部地区は、市街地化の歴史が古いことなどが理由で、順調な人口流入が生じにくい状況にある。

しかし、南部地区の市街地は市内でも比較的気候の穏やかな地区であり、東別府駅など大分市方面への交通の便も良い。また、山や海の景観を背景に歴史的建造物や古い町並みが残し、他の地区にない独特の雰囲気を持っている。

地区を通過する交通量が少ないことの裏返しとして、騒がしさのない静かな環境が保たれており、人を受け入れる垣根の低い住民気質もある。市街地にほど近い山間部には、内成棚田に代表される豊かな里山がある。

このように南部地区は住環境として多くの魅力を持った地区であり、移住・定住先としての潜在可能性は決して低くない。

《都市生活者の移住先として魅力を持つ地区》

近年、東京圏では医療・介護の不足のおそれや、保育士不足などによる保育環境の悪化が問題となっており、都市生活者の地方への移住や田園回帰の需要が高まってきている。移住希望者向け雑誌などでは、田舎暮らしが特集され人気を博している。田舎への移住を希望する人は、自治体が行う移住促進策としてのお試し移住事業などに都市では得られない生活の充足や刺激を求め、縁もゆかりもない土地での生活体験に参加している。実際当市においても「清島アパート」の利用者募集には、都市圏からのアート作家の応募が数多く寄せられている（勿論、利用条件等の適切なマネジメントがあつての成果である）。

都市生活者の移住先として見たとき、南部地区は、地方のよくある住宅地とも農村とも違う個性的な魅力を備えた場所であり、その魅力を生かした移住者誘致に大きな可能性があるのではないだろうか。

なお、日本で唯一の竹工芸科を持つ大分県竹工芸・訓練支援センターが別府市内にあり、竹工芸を志す全国からの入校生が2年間の滞在生活を送っている。入校生は、卒業後、さらに先輩職人に師事して技術を磨くとともに、制作や販売に必要な多くの人との縁を築く必要がある。このような若手工芸家の定住先としても、工芸関係者の人脈が存在する別府市には強みがある。作業場等の定住課題を解決し、別府市の目指す竹細工の振興と連携して、工芸家の定住に取り組む余地も大きい。

また、南部地区への移住促進策は、地域活性化の面でも重要である。南部地区の魅力や価値に共感し自ら移住してきてくれる移住者の視点や発想、行動力が南部振興において重要である。また、他自治体の移住促進の取組では、移住者が次の移住者の受入れに参加するなどの好循環を生む事例もあり、移住促進策は、南部振興を図るうえで欠かすことができないものと考えられる。

3. 南部振興の政策化と実施に向けた枠組み

これまで述べてきた南部地区の現状や課題、資源の整理により、南部地区は、地域課題が多いが、高い可能性のある地区であることが分かった。

南部振興というテーマは、いわば地域の経営であり、多岐にわたる取組みを行いながら、地域に変化を起こすだけでなく、地域の資源を守り、活用し、地域の人が自信と誇りを持ち、持続可能で自立した地域をつくっていかなければならない。

そのためには、共有できる将来像をつくり、核となる組織をつくり、政策的なポリシーを打ち立て、実際の政策を立案・実施していかなければならない。

この章では、南部振興を実現していくために、どのような分野で、どのような将来像を持ち、どのような組織と視点で政策を立案・実施していくべきかについて述べたい（図-13）。

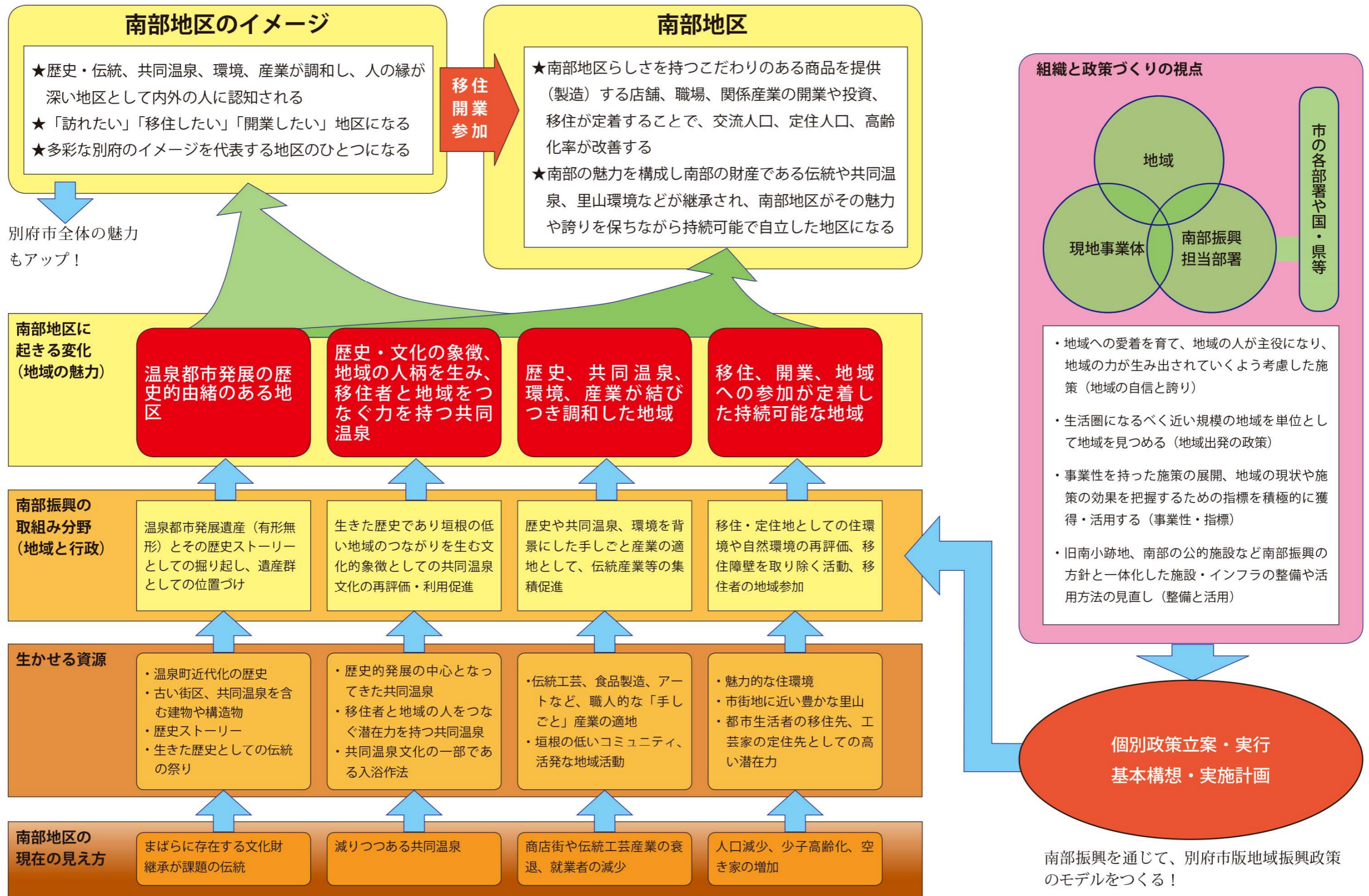


図-13 南部振興のイメージ

3-1. 南部振興の取組み分野、将来像

地域振興には多岐にわたる取組が必要であり、こういった分野で行動を起こすのかについて整理が必要である。南部地区の資源の分析から、南部振興で取り組むべき分野は以下の4点であると考えられる。

南部振興の取組み分野

- ① 【歴史と伝統】温泉都市発展遺産（有形無形）とその歴史ストーリーとしての掘り起し、遺産群としての位置づけ
- ② 【共同温泉】生きた歴史であり垣根の低い地域のつながりを生む文化的象徴としての共同温泉文化の再評価・利用促進
- ③ 【産業】歴史や共同温泉、自然を背景にした「手しごと」産業の適地として、伝統産業等の集積促進
- ④ 【移住促進】移住・定住地としての住環境や自然環境の再評価、移住障壁を取り除く活動、移住者の地域参加

さらに、このような地域振興の取組によって目指す、南部地区の将来像を示す。

政策化に向けた地域の将来像とは、単なる方向性を示したのではなく、多岐にわたる政策を立案・実施するうえで、個別の政策立案や実施・検証の基盤となり、地域振興全体の整合性を持たせてゆくための共通の目標にできるものである必要がある。

地域の将来像を設定することで、地域や地域のイメージにどんな変化を起こす必要があるのか、その結果どんな地域になるのかを共有でき、政策の不足や誤りを見つけ修正していくことを可能にしたい。

南部地区の将来像

南部地区が、歴史・伝統、共同温泉、環境、産業が調和し、人の縁が深い地区として内外の人に認知され、「訪れたい」、「移住したい」、「開業したい」地区となり、多彩な別府のイメージを代表する地区のひとつとなる。南部地区らしさを持つこだわりのある商品を提供（製造）する店舗、職場、関係産業の開業や投資、移住が南部地区に定着することで、交流人口、定住人口、高齢化率が改善するとともに、南部の魅力を構成し南部の財産である伝統や共同温泉、里山環境などが継承され、南部地区がその魅力や誇りを保ちながら持続可能で自立した地区となる。

3-2. 南部振興の組織と政策づくりの視点

上記の取組み分野で活動し、将来像に近づいてゆくための組織と、南部振興の個別政策の立案・実施の際に共通のポリシーとして持つべき考え方（政策的視点）について提案したい。

南部振興の組織

- ① **【南部振興担当部署】**
地域や現地事業体と協働し、行政の各部署や国・県、地方創生関連の外部団体等と協力しながら南部振興の様々な施策を統括する。
- ② **【現地事業体】**
移住促進や地域のネットワークづくり等の南部地区の現地での活動を事業性を持って実行し、将来的には南部地区の自立した地域づくりの核となる株式会社等の組織形態を持った組織。
- ③ **【地域】**
南部地区の住民や、南部地区で活動する人や団体、産業で、南部振興の主役となる人々
- ④ **【市の各部署や国・県等】**
別府市の各部署や、地方創生において重要な役割を持ち間接的に南部振興へ寄与する、国や県の各機関、団体等。

南部振興の政策づくりの視点

①【地域の自信と誇りを育てる】

地域への愛着を育て、地域の人が主役になり、地域の力が生み出されていくよう考慮した施策

②【地域出発の政策】

生活圏になるべく近い規模の地域を単位としてその課題や資源を把握し、政策を立案・実施する

③【事業性・指標を持った取組み】

事業性を持った施策の展開、地域の現状や施策の効果を把握するための指標を積極的に獲得・活用する

④【整備と活用】

旧南小跡地、南部の公的施設など南部振興の方針と一体化した施設・インフラの整備や活用方法の見直し

※南部振興の個別政策は、上記の視点を踏まえながら立案・実施していく。

3-3. 今後の取組み

本プロジェクトチームでは、南部の現状、課題、資源を見つめ、南部振興において取組むべき分野を整理し、南部地区の将来像、南部振興に必要な組織や個別の政策立案において持つべき政策づくりの視点を整理してきた。

今後は、この提言書に沿って各課と事業を協議し、実施に向けて始動していく等、南部振興を行動に移していく局面となる。

組織をつくり、地域に入り、地域出発の、地域の人が主役になった施策を立案・実施し、共通の将来像に向かって整合性があり、事業性を持った地域づくりを展開していくことで、持続可能で自立した地域をつくっていききたい。

今後の取組み案

- ① 南部振興担当部署（専任職員）の設置、現地事業体の設立準備
- ② 南部振興提言書の公開、地域住民、関係団体との関係づくり、指標データ収集
- ③ 取組み分野、将来像に基づいた全体的に整合性が取れた政策立案
- ④ 基本構想・実施計画策定

南部の産業・歴史・文化・伝統を掘り下げ、未来につなげるプロジェクト

プロジェクトチームメンバー 名簿

現所属・職名	氏名	備考
建設部長	岩田 弘	兼務 本部長
企画部自治振興課長補佐兼協働推進室長	後藤 隆	兼務
建設部建築住宅課長補佐兼建築整備係長	浅井 建二	兼務
建設部都市整備課主査	高木 佳子	兼務
企画部秘書広報課広報係長	新貝 仁	兼務
ONSENツーリズム部観光課誘致宣伝係長	安部 純子	兼務
企画部政策推進課主任	末松 芳洋	兼務
ONSENツーリズム部観光課主任	河村 達也	兼務
建設部都市政策課主任	中尾 隆宏	兼務
企画部政策推進課主事	渡邊 康成	兼務

事務局：建設部 都市政策課